

アサクサノリ養殖品種の作出

岩出将英・林茂幸・羽生和弘

目的

三重県の黒ノリ養殖業は、高齢化や生産者価格の低迷、経営コストの高騰などにより衰退の一途をたどっている。そのため、黒ノリ養殖業の再建に向けて生産者の経営基盤の改善や収益性の向上を図り、経営の安定化に資する取組を行う必要がある。その方策のひとつとして他県製品との差別化を図り、競争力のある三重県産黒ノリ製品を生産できる新しい養殖生産体制の構築が挙げられる。

本研究では、全国でもごく一部の地域でわずかにしか養殖されていない※アサクサノリ (*Pyropia tenera*) に注目し、付加価値のある製品を作出するため、アサクサノリの試験養殖を試みる。

※アサクサノリ・・・味や香りが良く、葉体が薄く軟らかいために希少価値の高い逸品として少量でも高値で取引されている。全国でも自生地は数えるほどしか確認されていないため「幻のノリ」と呼ばれている。

方法

1. アサクサノリ養殖株の作出

平成 25, 26 年度漁期の試験養殖に用いたアサクサノリ養殖株 (Pt-1 株, 未純系) について、更に選抜 (最終選抜) を行い、純系株を作出した。Pt-1 株のカキ殻系状態からビニロン単糸に殻胞子を採苗し、葉長数cmまで生長させた葉状態から新たなビニロン単糸に単胞子採苗を行った。単胞子由来の葉状態から高生長を示した個体を視覚的に選抜することで純系株とした。

2. アサクサノリ試験養殖

平成 26 年度漁期の養殖には、未純系株を用いた。未純系株のフリー系状態を大量培養し、カキ殻 10,000 枚に移植させることでカキ殻系状態を作製した。採苗までのカキ殻系状態の維持管理は、伊曾島漁協種苗センターで行った。また、試験養殖に用いる養殖網への採苗は、伊曾島漁協所有の陸上採苗施設において実施した。

3. アサクサノリ品質検査と共販出荷

平成 26 年度漁期にアサクサノリ養殖漁場から生産された板ノリ製品については、外部機関 (分析会社) において遺伝子種判別検査を実施し、製品中にアサクサノリの遺伝形質が確認された製品についてのみ共販に出荷された。

結果および考察

1. アサクサノリ養殖候補株の作出

最終選抜によって得た葉状態を水温 18℃で 25 日間通常培養し、葉長・葉形・成熟度を指標に合計 6 株のアサクサノリ養殖株 (純系株) を作出し、フリー系状態で保存した。作出した 6 株について、Abe et al.(2013)の方法によって種判別を行った結果、全てアサクサノリであることを確認した。

2. アサクサノリ試験養殖

試験養殖には、3 地区 (桑名・松阪・伊勢) 26 名 (昨漁期 11 名) の生産者が参加した。地区別の生産者数および試験養殖に供したアサクサノリ養殖網数を表 1 に示した。

表 1 平成 26 年度漁期 アサクサノリ養殖試験概要

地区	漁協	生産者数	養殖網数
桑名	A	13名	128
	B	2名	416
	C	4名	128
	D	4名	64
松阪	E	1名	30
伊勢	F	2名	68

試験養殖地区では、日平均水温が概ね 19℃以下になった頃から順次育苗が開始された。全地区において単張り展開後のアサクサノリは、12 月中旬以降になっても葉長数cm程度しか生長せず、スサビノリ種に比べてかなり遅い生長を示し摘採までに 50 日以上の日数が必要であった。

3. アサクサノリ品質検査と共販結果

PCR によるアサクサノリ品質検査の結果、試験養殖を行った 26 生産者のうちアサクサノリ製品を生産・出荷できたのは桑名と伊勢地区の一部の生産者 (全 10 生産者) のみであった。原因については、アサクサノリ養殖網へのスサビノリの混入が考えられた。

アサクサノリ板ノリは第 4 回共販 (平成 27 年 1 月 30 日) に出品され、平均価格 2,618 円/100 枚 (最高値 8,510 円/100 枚) で落札され、他品種 (スサビノリ) の平均 1,078 円/100 枚に比べて高評価を得た。

関連論文

Abe M. Use of PCR-RFLP for the discrimination of Japanese *Porphyra* and *Pyropia* species. J Appl Phycol. 2013; 225-232